

令和 8 年度第 2 回仙台若者会議「せんだいユースカウンシル」 議事録

I 会議概要

- 1 日 時 令和 8 年 7 月 15 日（水）16：00 ～ 18：00
- 2 会 場 アーバンネット仙台中央ビル 4 階スマートイノベーションラボ仙台
- 3 出席委員 14 名
浅野圭亮委員、及川綾香委員、大井菜摘委員、大高成美委員、奥平悠大委員
加賀春埜委員、河村真実委員、齊藤祐輔委員、佐藤晟也委員、清野綾花委員
中田茜吏委員、中野柊一郎委員、前田将宏委員、米山萌香委員
- 4 議事録署名人 大井菜摘委員、大高成美委員

II 議 事

1 開 会

○村上事業推進担当係長

本日はご多用のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから第 2 回 仙台若者会議「せんだいユースカウンシル」を開会いたします。

本日の司会を担当します、仙台市こども若者局こども若者政策課の村上と申します。よろしくお願いいたします。

開会に先立ち、お知らせとお願いがございます。

本会議は公開で行うこととしております。また、会議録作成のため、本日の会議内容を録音しておりますこと、あらかじめご了承ください。

傍聴席の皆さまへのお願いです。会議中の発言や会話、無断での録画・録音等をご遠慮いただき、円滑な会議運営にご協力くださいますようお願いいたします。

続きまして、お手元の資料について、ご確認をお願いいたします。

次第、グループワークシート、A グループのテーマ「仙台・東北への愛着を背景とした、地域との関わりに関する若者の意識について」の参考資料、B グループのテーマ「町内会をはじめとする地域コミュニティのあり方について」の参考資料をご準備しております。

不足している資料がございましたら、お知らせください。

2 アイスブレイク

○村上事業推進担当係長

それでは、本日はグループワークの前に、アイスブレイクとして前回の振り返りを行いたいと思っております。テーマのことやテーマに対して前回どのような意見が出たのかなど、A、B グループ関係なく、3～4 人のグループを作りまして、改めてお話をしていただきたいと思います。進行を齊藤会長にお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○齊藤会長

いま事務局から説明があったとおり、まずはアイスブレイクとして、前回の振り返りを行って、今日のグループワークに移っていきたいと思っています。

近くの方と3～4人のグループを作って、5分程度話ができたらと思っています。よろしくお願いします。

(各グループにて振り返り)

3 グループワークシートについて

○齊藤会長

本日は各グループに分かれて議論をする時間を長めにとっていますが、お互いのグループでの議論なども覗きながら、触発をし合いながら進められればと思っています。

事務局でグループワークシートを用意していただきました。議論の地図のように活用いただき、議論が盛り上がった後に、シート上のこのあたりの議論になっているということをグループ内で確認を取りながら進めていただければと思います。詳しい説明について事務局からお願いします。

○長谷部こども若者政策課長

(資料に基づき「グループワークシート」を説明)

○齊藤会長

ありがとうございます。こちらを基にしながら議論を進めていただければと思います。

グループ間で進行度合いに差はあるかと思いますが、今日はシート上の「④解決に向けフォーカスする課題」や「⑤解決に向けた施策案」あたりの意見をまとめていく時間になるのではと想像しております。まずはしっかりテーマの理解や課題の部分をグループ内で議論いただければと思います。

早速グループワークに入りたいと思いますが、議事録の署名人は、大井副会長と大高委員にお願いしたいと思っています。

○大井副会長、大高委員

はい。

○齊藤会長

グループワークの最後には、各議論のまとめを各グループで発表いただき共有する時間を設けたいと思います。それでは各グループに分かれて進んでいただければと思います、よろしくお願いします。

4 グループワーク

(1) A グループ「仙台・東北への愛着を背景とした、地域との関わりに関する若者の意識について」

○中田委員

今回に向けての宿題が、現地と現地人との交流等を通じ、地域のファン化に繋げるということで、この情報やアイデアを集めるというものでしたが、前回の話し合いの中で仙台市は住む場所としては魅力があるけど、観光地としての魅力が少ないから関係人口が少なくなっているんじゃないかという話があったと思います。

この課題の認識が正しいのかというところと、ここで捉えている課題に対してどうアプローチすべきかということを考えたいと思いました。高校の同級生で仙台から市外の大学に進学した人、市外から市内の大学に来た人、仙台が地元で今も仙台にいる人という3パターンの友達がいたので、それぞれ15人ぐらいずつにアンケートを行ったところ、回答が45人分集まりました。アンケートでは、住む場所としての魅力と課題、観光地としての魅力と課題、それぞれに1～10まで点数をつけてくださいということと、今後どうしていくのがいいと思いますかということ聞いてみました。

結果は、住む場所としての魅力は高得点を付けた方が多いものの、観光地としての魅力は10点中2点など低い傾向にありました。仙台が地元で今も仙台にいる人による観光地としての評価が最も低かったです。皆さん、都会過ぎず田舎過ぎずちょうどいい、という意見がありました。

○中野委員

回答者は全員大学生ですか。

○中田委員

私が所属するサークルの元メンバーで、今年社会人になった方数人が含まれますが、それ以外は大学生です。追加で留学生にも仙台の魅力や足りない部分を聞いてみると、お店がすぐ閉まる、遊ぶところが少ない、といったことを言われました。また、宗教関係ではお祈りする場所が少ないという意見もありました。やはり課題感は間違っていないところと、今後何をしていくのがいいと思うかという観点からの意見もいただいているので、今後提供していきたいと思います。

○奥平委員

僕は他の地域の事例を調べてきました。その中で、すごく惹かれた事例がありまして、徳島県神山町という人口4,500人程の町なのですが、来てくださる方に、単なる観光じゃなくて、役割をもって地域に入ってもらおうという取組を行ってしまして、仙台でも落とし込めるのではないかと感じました。具体的な事例としては、地域のお困りごとを一覧にして、来訪者はこのお困りごとを解決したいというところに出向いて、地域の方と一緒に解決する。例えば、

畑のお手伝いを一緒にしたり、空き家の清掃を一緒にしたりという形で、関係を作りやすい取組だなと感じましたので共有させていただきます。

○前田委員

僕は事例や対象、アイデアのたたきなどを整理してきました。

他地域の事例については、新潟県の「にいがた鮭プロジェクト」、島根県の「しまコトアカデミー」、宮城県栗原市の「おてつたび」など、さまざまありました。瀬戸内海の地域が力を入れている印象でしたね。

内容としては、副業のマッチングであったり、観光地を生かした交流、仕事での交流など、さまざまでした。

対象については、①進学・就職で転出した仙台・東北出身者、②仙台で学んだ市外出身の卒業生、③旅行で来訪した市外住民の3パターンがあるかと思っています。①に関しては愛着あるけど接点が薄れているので出身者のコミュニティづくりのような施策、②の市外出身の卒業生では「第二の故郷」として、同窓会のような接点づくりの施策、③の市外住民は愛着ゼロからのスタートになるので、プロジェクトに参加してもらいたいようなもの、というように整理すれば施策としては作れるのではないかというふうに思っております。

アイデアのたたきではありますが、まずは転出前にファン化をするということが転出する人たちには大事になると思いますし、役割を付けることで再訪する意味を定義してあげることが大事、そして関わること、社会に貢献できるというところを意味づけられればいいのかと思いました。

○米山委員

私は対象の整理を中心にやってきました。関係人口の鍵を握っているのは、高校生・大学生の層かなと思います。大学進学時に、東北外に出て行く人が多くなってしまうのは仕方ないことだとも思っていて、逆に東北大学などを目標に、仙台に来る人も多い、人口の流動がとても多い人口層だとも思っていて、その層をターゲットにできたら数字的にもアプローチしやすいかなと思いました。他の地域の事例について私も調べてみたんですが、ファン化は何もないところには生まれえないと思うので、仙台だから戻ってきたいって思えるものを話し合っていけたらいいかなと思いました。

○大高委員

私は前回の会議から今日までに、県外に4、5か所行きまして、その中で今回のテーマの観点から地域の取組やその先で起きている事象などを見てきました。

1点目は青森市です。平日の金曜日でしたが、人が少なく、お店もオープンしてるのかな、というような状態だったのですが、これが8月になるとホテルは取れない、人で溢れる、という状態になるそうです。毎年ねぶたに行ってる方もその場にいたので聞いたところ、何人もの方が、やはりねぶたは、自分も一緒にこのお祭りに参加しているということが楽しくて、

ファンになって、毎年高い宿泊代を払って参加しているというお話をされていました。では仙台にそうしたものがあかなと思ったときに、発信も含めて課題があるなと考えました。

2点目は新潟です。アジア太平洋エリアを対象とした会議が行われて、今回は羽田や成田じゃなくて仙台空港を利用して新潟に来てる方が多くいらっしやって、明日仙台から帰国するという話になったので、仙台では何をするの？と聞いたところ、1回東京に行こうかなと言われてしまったことが結構悲しくて。となると、やはり空港があるから利用してくれるけど、それ以外の魅力や便利な部分が少ないのかな、と感じました。

3点目が、私たち（仙台青年会議所）が実施している8月5日の仙台七夕花火祭では、そこに市民を巻き込んで花火祭と一緒に作ろうっていう、地元の人たちをファン化したいという取組は行っているのですが、こういった視点から見ると、その取組はその日のボランティアというだけで、地域愛を醸成するために50年以上やってる事業ですら、そこまで至ってないと感じるので、まちとして巻き込めるものの資源が足りないように感じました。

○中野委員

仙台を出るタイミングを考えると、大学進学と就職の2パターンがあると思ひまして、それぞれのパターンでアプローチを整理してきました。ある調査によると、大学進学のタイミングで転出した若者がUターンして戻ってくる割合が30%から40%、一方で就職のタイミングで転出した若者がUターンする割合が10%未満だそうで、どちらをターゲットにすべきなのか、皆さんと話せたら嬉しいと思ひていました。大学進学のタイミングで転出した若者だと、就職する際に、地元に戻るか、東京に残るかという選択ができるというのが、この差の理由のようです。

個人的には、就職のタイミングで転出した方は、その後、家族や仕事の関係で帰りづらいと思うので、就職のタイミングにもう一度選択ができるという観点から、大学進学のタイミングで転出した若者にフォーカスするのはいかがかなと思ひておりました。

○齊藤会長

僕も対象と打ち手になりうるような事例を調べてきました。

市外にいてまだ仙台にタッチしてないけど観光に来る人より今在仙する若者に将来的にも関係が続けたいなと思ひてもらう方が、仙台の資源としてはいいのかなと思ひてきました。

その前提の上で、彼らをどのようにファンにできるのかということで事例を調べて、前回お話が出た女川の話と、もう1個は岩手県の陸前高田を拠点にして活動してる認定NPO法人SET（セット）の話をもってきました。SETさんは今、大学生ないしは卒業生を、岩手県の広田町や岩手町などに、合わせて80人ほど移住させています。

何をしてるかという、一つがチェンジメーカースタディプログラムというプログラムを運営していて、全国の学生がそのプログラムを目的に地域に入ってくるんですね。1週間ぐらい地域にいて、地域の中で地域住民と関わりながら課題を見つけてアイデアを作って実践して発表する、というプログラムになっています。

彼らの活動が 80 名の移住者につながっていることには、理由があって、参加した後にプログラムの運営ができる仕組みなんですね。

そうすることで、運営のために 2、3 回、また広田町に訪れる。地域住民で手伝っていただける方にアポを取ったり、ワークのアイデアを考えて、今度は次の大学生を迎え入れるホスト側になるという仕組み。その子たちにインタビューをすると、現地に入って活動すること、さらには地域で人との思い出をつくること、これがとても重要で関わり続けている理由だという話が出てくるそうです。

2 つ目は女川です。女川は活動人口という言葉を使って、本気の起業創業する人向けのプログラムと、試しに住んでみたい・暮らしてみたいというお試し移住のプログラムをやっているようで、僕の周りにもプログラムに参加して、社会人になった後も、足しげく通っている東京や京都の知り合いがいるんですけど、その子たちに話を聞くと、女川では地元の人と話すために飲み屋に行く、という話でした。

この 2 つの事例をセットにして考えると、あの人に会える、特定の人に会えるというモチベーションで人が動くんだなというのが一つと、活躍ができる経験や関わりしろがあることが重要なのかなと思いました。そうするとプログラム終了後も勝手に来る事象が生まれているという分析ができるかなと思っています。これは都市圏で作れるのかというのが一つ疑問でして、現在の取組として仙台まちづくり若者ラボという地域の課題を解決するプログラムを実施していて、そこに参加する大人と触れ合ったときにこの人とまた会えるから来る、となるかどうかというのが、関係人口的な観点で言うと、ポイントかなと思いました。この人に会いたいというのは、ちょっとローカルの方が強いイメージがあるんですね。ですので、その辺りを検討したいなというのと、仙台は結構広いので、場所を強みにするようなこともあるのかなとか、そんなことを考えてきました。

○齊藤会長

では、今話していただいたことについてグループワークシートを見ながら整理してみましょう。加えて、何かアイデアがあれば追加してもらえればと思います。

○中田委員

仙台市外から大学進学を機に仙台に移り住んだ人の方が、住む場所としての魅力を感じているのが面白いですね。

○前田委員

本当に住む場所としてはとてもいいと思います。実感してます。

○齊藤会長

その話でいくと、そこで育っている人よりも外から来た人の方がターゲットのあたりとしてはいいということですね。

○中野委員

仙台が地元ではない、外から来た方を巻き込むということですよ。

○大高委員

外から見た仙台と内から見てる仙台が違うということですかね。

○中野委員

でもどちらにせよ、居住に関してはハイレベルな評価ということですよ、仙台が地元の方も地元じゃない方も。

○齊藤会長

1 回住んだ人が住まいとしていいなと思った上で、もう一段階の何かがあると今後も関わるかもみたいに思うんですかね。住まいとしていいなと思ったけど、やはり就職などの強い引力で引っ張られてしまうという。

○奥平委員

住んでる人は観光地に行くんですかね。観光地としてはどういったところでしょうか。

○中田委員

仙台と言えばこれ！というのもアンケートで聞いてました。1 位は牛タンです。他には松島でした。

○奥平委員

住んでる方は牛タンを日常的には食べないですもんね。

○齊藤会長

先ほどの、関与や役割をもたせる、のような話だと、牛タンの作り手になるというのはあるかもしれませんね。

○大高委員

3 日前に広島から、初めて東北に来た人が牛タン以外わからず、たまたま神社が好きな人だったので、神社を案内したんですが、結局全国と比べると 2 番手、3 番手のようなところが多くて。

○中田委員

周囲に聞くと、せっかく観光資源があるのに回遊性などのアクセスが良くないため、活用できていないという意見もありました。アニメの聖地もありますけど、有名になっていない

とか。

○大高委員

アニメの聖地に関しては、海外の人の方が知っていて、案内してほしいと言われて初めて聖地だと知るということもあります。

○中田委員

今、観光から人を巻き込む話になってたと思うんですが、大学進学で仙台にきた人を定着させたい場合には、居住としてのアプローチになると思いますし、対象によってアプローチが違いますよね。中野さんが調べていただいた、大学進学での転出では 30%程度戻ってくるけど、就職での転出では 10%しか戻ってこない調査からすると、余力がある方をさらに上げに行くのか、より可能性がある方を上げに行くのか、求める理想像がどこかというところでも変わるかなと思います。

定住人口を増やしたいのであれば、もっと就職機会を増やして、仙台に住んで働いてもらうようなことになると思うんですけど、先ほどのように役割をもって関与してもらってたくさん訪れてくれる人数を増やしたいのであれば、就職先として仙台を選ばなくてもいいかと思うので。

○齊藤会長

今回は関係人口なんで定住よりもファンということですよ。

そうすると外に出た社会人向けの窓口案のようなものを出すのか、外に出る前の学生に関係をつくるプランを作って、将来に来てもらうような話にするのか、どちらかかなという感じですかね。

○前田委員

さまざまな地域でスーパー公務員ということで話題になる人いますよね。そういった人がいると外にいる社会人も興味があるんじゃないかと思います。先ほどの女川の事例でいくと、市が運営する飲み屋ってあるんですか。アンテナショップとか。

○東北連携推進課

東北の各地の産品を使って魅力を発信する Route 227s' Cafe という店を勾当台公園で委託をして営業してましたが、本庁舎を含めた一体的な整備もあり、中断しております。

○米山委員

整理をすると、まず、対象を誰にするかから考えるか、理想像から考えるかの選択ですよ。そして理想像に関して、定住人口を増やすか、仙台にたくさん足を運んでくれる人という関係人口を増やすか、ターゲットとしてはこの2つのいずれかになりますかね。

○中田委員

今はそこしか検討できていないので、他も考えてみてもいいかもしれないですね。

○中野委員

Uターンとして、大学進学時に転出した人、就職時に転出した人、Iターンとして、大学進学時に転入した人、就職時に転入した人の4ルートがターゲットとしてありそうです。

○齊藤会長

要は生まれが仙台なのか、仙台じゃないのか、現在地が市外なのか市内なのか。

○大高委員

関係人口と考えると市外の方になるでしょうか。

○齊藤会長

今市内にいる人向けに施策を打つということは、未来の関係人口を作ることになるかと思います。

○中田委員

大学進学時や就職時に転出しても定期的に戻ってくる人を作るということですよね。

○齊藤会長

皆さんの所感を伺いたいところですが、いかがですか。

○奥平委員

今市内にいる人へのアプローチの方が考えやすい気がします。

○中田委員

観光の魅力よりも、住む場所としての魅力を感じてくれる人が多いのであれば、そこをターゲットにした方が実現可能性は高いですね。観光地として他の地域と競いに行くより今住む場所としての良さをわかってくれてる人を離さない方が。

○中野委員

観光に振っていくと、仙台の良さが消えるのではないかとということを一市民として心配しています。観光も大事だと思うんですが、仙台らしさは大事にしたい。

○齊藤会長

一度、市外から市内に来た人に対して、何ができるか考えてみますか。

学生で来たのか就職で来たのかみたいな話ですね。

○中野委員

大学生が来るとなると、東北圏域が多いんですかね。もしそうだとしたら、東北圏域で考えたいのに、合致しなくなるかなと思います。

○中田委員

私の通う大学だけで言ったら、関東圏からの進学者が今年一番多いんですよ。

○米山委員

体感的に大学全体で市外から来た人はどのくらいなんですか。

○中田委員

7割以上は一人暮らししてるなって感じます。

○奥平委員

私の通う大学だと97%が東北地方の出身者です。宮城県出身者は66%らしいです。

○中田委員

大学によっても、アプローチが違いますよね。

(休憩)

○米山委員

パターンごとに少しアイデア出しをしてみますか。

○齊藤会長

「生まれも仙台で現在も仙台に居住する人」と「市外から仙台に来た人」のアイデア出しをするか、「市外から仙台に来た人」の中でも学生と社会人に分けてアイデア出しをするか、という論点があると思いますがいかがですか。

○中田委員

既に仙台市内に住んでいる人だと、定住人口となるので、今回のテーマの関係人口とは違う気がしてきますね。ただ、学生で市外から仙台市内に転入した人であれば、就職のタイミングで転出する可能性があるので、それを止める、もしくは転出したとしても関わり続けてもらえるようにどうしたらいいか、のアイデア出しはできそうです。

○中野委員

たしかにそうですね。もう一度整理しましょう。

○前田委員

1つ目として、今は市外にいる社会人に対する施策で、2つ目が同じく今市外にいる学生に対する施策。

○中田委員

今市外にいる学生に対するものだと、難しくないですか。

○前田委員

先ほど事例で出た「お試し移住」のような取組もあると思います。あとジャストアイデアですが、市外の大学生が、市内の会社が集まる市内の就職説明会などに行く場合に交通費と宿泊費を出すような施策もあるかもしれません。

それから、3つ目が、今市内にいて今後転出する可能性がある社会人に対する施策、4つ目が同じく、今市内にいて今後転出する可能性がある学生に対する施策。目的としては、また戻ってきてもらうか、転出後も関係を維持してくれるということですかね。

3つ目と4つ目は、施策の即効性は高くないと思うので、中期的な施策になりそうですね。

○中田委員

大学進学する人は60%程度だと思うのですが、進学以外の方が漏れてないですかね。

○前田委員

それは社会人として、カバーできてると思います。

○中田委員

確かにそうですね。そうするとこの4つで整理できそうですね。

○前田委員

パターンはできたので、あとはどこの施策を考えていくかですかね。

○奥平委員

学生は学校という場所に集まっているのに対して、社会人はさまざまな場所で活動されてるので、学生の方が考えやすいかなと思いました。

○中田委員

時間もありますしね。

○齊藤会長

社会人の方の意見はどうですか。

○前田委員

今市外にいる社会人で考えると、金銭的にも動きやすさは学生よりあると思います。

定住となるとハードルは上がりますが、関係人口で考えるとハードルは下がる気がします。

○大高委員

決定権も自分でもってますね。

○齊藤会長

遊びでも出張でも社会人は訪問のハードルは低いかもしれないですね。

○中田委員

東京から1時間半で来れますね。

社会人になって金銭的に余裕が生まれたときに、仙台に遊びに行こうという選択肢を残すために、学生のうちに仙台いいなと思う経験を積むのは大事そうじゃないですか。

○齊藤会長

市外にいる社会人と、市内にいる学生の2パターンで考えるのがいいかもしれないですね。

○奥平委員

社会人は確かに即効性は高そうですが、学生は中期的にという感じですね。

○齊藤会長

奥平委員の言うとおり、学生の方が当たりやすさはありますね。

だけど短期で関係人口を増やすなら市外の社会人、中期的に育成するのが市内の学生という2パターンですね。短期で市外の社会人で関係人口を増やしている間に、市内の学生の関係人口に向けた施策で育てていくと。

○中田委員

この2パターンの施策について5分ずつ皆さんでブレストしましょう。

○中野委員

奨学金を地元に戻ったら返さなくていい施策はすごく有効らしいです。

○中田委員

大企業を誘致してほしいみたいな意見もありました。

○奥平委員

それこそ役割という話はずっと出てましたけど、役割を 1 回もつと愛着は残るし、今後も戻りやすいのかなとは思いますね。

○前田委員

私のいた大学の事例だと、年に 1 回、学部単位で卒業生呼んで在校生と交流する機会があって、絶対に年に 1 回卒業生は帰るんです。そうすると学生時代のバイト先にも顔を出したり、繋ぎとめられる。

○奥平委員

自分もボランティアでこどもたちと関わっていて、こどもたちとの関係性ができてから、これから卒業して転出したとしても、こどもたちの成長を見に戻ってきたいと思えますね。

○大高委員

地域イベントも大事じゃないですか。お盆のイベントのために帰るような人も多いですし。

○中田委員

役割が欲しいですね。これになってるから戻ってこなきゃ、のような。

○米山委員

奥平委員と中田委員はなぜ東北に残っているんですか。

○奥平委員

僕はやはり OB として元々所属してたところでの役割みたいなところはすごい大きいかなとは思います。

○中田委員

正直に言うと私は今出ようと思ってます。

○奥平委員

役割は急にできるものではないと思うので、学生時代時間をかけて、何かに所属したりすることでできてくるものだと思いますね。

○大高委員

私は地元じゃないのに、仙台での自分の役割がありすぎて出られないですね。

○中野委員

今、地元の小・中学校との関わりってありますか。

○奥平委員

僕は児童館に出向いてボランティアをしていますが、周りの友人などでいうと小・中学生との関わりは子ども会とかですかね。子ども会のお手伝いはしてます。

○中田委員

私は出身高校のティーチングアシスタントをしています。

○齊藤会長

5分経ったので、続いて今市外にいる社会人の施策をブレストしましょう。

○大高委員

ちょうど最近のニュースで見た佐賀市の取組なんですが、友達や知り合いと一緒に佐賀に連れて帰ってくると交通費や体験費用に対して旅行補助が出るみたいです。佐賀出身で東京に住んでる人が友達を連れて行くみたいなこともあると思います。

○前田委員

旅行補助がなくても呼ぶだけならきつとできると思いますね。そして呼んだことがきっかけで、ずっと来るようになってもらわないと意味がなさそうですね。

○大高委員

リピーターになる人は、温泉もしくは飲み屋ですね。結局、お祭りに行きたいではなく、国分町に通いたいみたいな人たちがリピーターになっていくのかな。

○中田委員

結構飲食のイベントをやっていますよね。横丁単位でも。都内だと混んでて楽しめないけど仙台だったら楽しめそうだから来る、ということがあるのであればそういったものを推進してもよさそうですね。

○中野委員

補助目当てじゃないですもんね。例えば誰かと会うとか、人なんですよね。市外から来る2回目の人には割引しますのような制度にしても別に意味がないんですよね。

○大高委員

高くても来るんだと思います。

○齊藤会長

強めに関係人口にコミットしている社会人を考えると、仙台で自分のスキルを生かす人か、仙台が好きで仙台の商品を市外で売るとか、市外で東北周りのプロジェクトをやってる人が足しげく来ると思います。そういうことをやってる人は、間違いなく強めの関係人口になってきそうですよね。

○中野委員

仙台のイベント情報を市外にPRはしてるんですか。

○前田委員

出してる気はしますが届いてないのかもしれないですね。僕らが他地域の祭りの情報を知らないのと同じ感じで興味がないんですよね。

○大高委員

あとはきっと、ねぶたや大曲の花火に負けてしまってるのかもしれないですね。

○齊藤会長

やはりそういったものとは競わない方がいいですね。

○奥平委員

社会人の方は人との関わりを新たに作りたいと思うものなんですか。

○大高委員

私はむしろモノより人に対しての興味の方がありますかね。例えば、東京に行ってお寿司を食べたいではなくて、東京でこの人と飲みたいとか、青森だとしても青森の何かを食べたいとかではなくて青森にいるこの人に会いたい、という気持ちで行動していることが多い。

○奥平委員

人との関わりを作れるイベントのようなものがあるといいのかもしれないですね。

○米山委員

この部分は学生とも共通してそうですよね。学生もお金があれば会いたい人に会いたいし、行きたいところに行きたい。人って大事ですね。

○中田委員

仙台の人の魅力はどういうものがありますかね。

市外から来られた委員の皆さんが会いたい仙台の人はどういう人ですかね。惹かれた何かはありますか。

○米山委員

仙台に来てから思ったのは電車で当たり前に席譲るとか、誰かがスマホを落としたら周りのみんなが拾おうとするのは、東京ではあまり見かけなくてすごく素敵だなと思いました。

○奥平委員

仙台の人は仙台に愛着をもってる人が多い気がします。

○齊藤会長

人の話は、社会人で考えると新しい人と関係を築くのに時間かかりますよね。中期的に検討する学生への施策であれば、人との関わりはいいかなと思うんですが、社会人への施策となると入口は別のところの方が可能性があるかなという気がします。例えば推しという観点で、楽天の試合観に来る人を増やすとか。

○大高委員

それはありますね。仙台はプロスポーツがたくさんあって地元でも盛り上がってるのに外部からのファンづくりには苦戦してる気がします。

ふるさと納税のように、仙台にただ税金を払うのではなくて、仙台の何かを推す人を増やすということだと取っ付きやすいのかなと思いますね。あと社会人は仕事のマッチングを丁寧にやるとか、そちらの考えもあると思います。

○前田委員

どこの地域か忘れてしまったのですが、市が市内の企業の困ってる事項をピックアップしてポータルサイトに掲載して解決してくれる人とマッチングさせるという事業があったと思います。

○米山委員

仙台市にも、求人で就職まで結びついたら引っ越し費用が賄えるぐらいのお金がもらえるような事業があったと思います。

○中田委員

個人的な意見になるんですが、就活をしていると将来何になりたいとか何をやりたいかを聞かれると答えが難しいんですね。そういう中で、何年後、何十年後の自分になりたいロール

モデルが身近にいたら、その人から話を聞く機会があるととてもいいと思います。もしそういう機会があれば、その人に定期的に会いに戻ってこようという気持ちになると思うので、学生時代に目標とする人に出会えて定期的に会える機会があるといいなって思ってます。そうすると、その人のキャリアに共感した場合、東京での就職を考えていたけど地元で就職しようとなる人もいるかもしれないです。

○中野委員

学生と社会人のマッチングですね。

○齊藤会長

時間になってしまうので、今後の進め方について少し話しましょうか。

10月の報告までの時間を考えると、市外にいる社会人、市内にいる学生の2パターンのうちでもどちらかに絞る話もあると思うんですが、できれば両方の施策を考えた方がいいと思っています。即物的なターゲットと育成的なターゲットがあると報告の形にしやすいし、市側としても選択できるメリットがあると思いますが、その方向でよろしいでしょうか。

○Aグループ全委員

(承知)

○齊藤会長

では、次回までにこの2つをターゲットにそれぞれ施策を考えてくることにしましょう。

また、仙台市側にお願いですが、今回の議論でターゲットとする2つが決まったので、このターゲットに対して現在実施している施策があれば教えていただきたいです。

○東北連携推進課

(承知)

(Aグループのグループワーク終了)

●Bグループ「町内会をはじめとする地域コミュニティのあり方について」

○大井副会長

前回のワークで、皆さん自身の町内会の加入にもばらつきがあったり、どこの町内会に属するのも分からないという状況だったので、町内会がどういう役割を果たしてるのか、仙台市側で追加の説明をいただいて共通認識にできたらと思ってました。まずは追加の資料の説明からお願いしたいと思います。

○地域政策課

(資料に基づき説明)

○大井副会長

ありがとうございます。

せっかく説明いただいたので、不明な部分とかあれば質問いただければと思いますが、皆さんいかがですか。私からいいですかね。先ほど紹介いただいたチラシはどこに行けば手に入りますか。

○地域政策課

現在、市の施設等に配架しているほか、不動産関係の団体と協定を締結してしまして、不動産会社の窓口配架して配っていただいています。ですので、仙台への転居等で不動産会社に行かれたときに、窓口を設置してあるチラシが最初に目にするものになるかなと思います。

○佐藤委員

資料 19 ページに市の施策として集会所建設補助金があるかと思うんですが、町内会でこういった集会場を持ってるところは大体何割ぐらいあるのか分かりますか。若い人が参加するには場所があった方がいいなと思いました。

○地域政策課

集会所は届け出る義務がないこともあって、仙台市でも正確には把握しきれていません。今後、老朽化への支援なども検討するために、町内会に集会所の有無や築年数等を確認しているところです。

現時点で集まっている情報からすると、おそらく全体の半数にあたる 600 から 700 程度の町内会が独自の集会所を持っていると思われます。持っていない町内会は市民センターやコミュニティセンターなどを借りて集まっているという現状です。

○佐藤委員

その維持管理も金銭的に大変そうですね。集会所は町内会が保有していて町内会の会計から修繕費や例えば固定資産税といった維持費が捻出されているんですか。

○地域政策課

仙台市では、集会所の固定資産税は免除される制度があります。また、建築時や修繕時に費用の 3 分の 2 を仙台市が補助する事業も行っていて、建築の際には最大で 1,200 万円まで補助が出せます。仮に 1,800 万円の建物であれば、3 分の 2 の補助で満額もらえるのですが、最近の物価高騰で 2,000 万円超規模の建物が出てくるので、そうなると超過分は町内会の手出しが発生することになります。建物や駐車場を維持管理していくとなると、仙台市の補助

があったとしても、一定の負担は発生することになると思います。

○清野委員

町内会のデジタル化を進める事業の説明の中で、1年間で25か所程度という話があったかと思うのですが、25か所に留まっているのは、仙台市の職員が忙しくてそれ以上の対応は厳しいのか、派遣するアドバイザーに係る費用によるものなのか気になりました。

○地域政策課

この事業に関しては、最初に町内会とどういった課題をデジタルで解決したいかというディスカッションから始めます。それから、ツールのご提案や実際に使用して町内会で運用できるものに落とし込んでいくというプロセスがあるため、最低でも1つの町内会に5回派遣を行う必要がありまして、そうなるとどうしても、1年間で支援できるのが25か所程度になっているという現状です。

そうしたことから、こちらはモデル事業として取り組んでいまして、いい成果が出た町内会に取組を発表してもらい他の町内会に広げていく、というモデルケースを作るために手厚く実施している状況です。

○佐藤委員

そうしたデジタルのパッケージ化は、今後されていく予定あるんですか。

○地域政策課

各区役所を会場に、携帯電話のキャリアの方々の協力を得ながら、スマートフォンやアプリケーションの使い方の講座を実施するという取組もありますが、高齢者のデジタルやモバイルなどのツールに対する抵抗を減らしたいという目的で行っています。今は希望者が受講しているのが現状です。町内会や団体、地域の皆様がある程度ツールを利用できないと、デジタルによる効率化は難しいと思ってますが、仙台市側からそこまでのことは求めづらいというのがあります。

ですので、先ほどの取組のように、希望する団体などには手厚く支援しますから、始めてみませんかという事業を実施して、「うちの団体はこんなに楽になった」という成果を挙げていきたいと思ってます。そうした団体は、とても良い事例として、他の団体に好影響を与えてくれると思いますので、今はそうした成果を挙げていただく団体を増やしているという状況です。

○加賀委員

取組の一例として町内会活動の事例集作成というのがあったと思うのですが、うまく回っている町内会という定義が難しいなと思ってます。若い人がたくさん加入していれば成功なのか、それとも何か取組をして成果を上げていたら良い町内会になるのか。

○地域政策課

町内会が現在抱えている課題に対して上手に向き合えているかどうかということだと思います。そういう意味で資料の中で事例として紹介した2つの町内会は、どちらも好事例の町内会ということになると思うんです。

1つは昔からの取組をこれからも継続していこうと地域が一丸となって向き合っている町内会。もう1つは今できることに焦点を絞って、地域の繋がり維持に向き合っている町内会。町内会によって自分たちの目指すところの設定によって違うのですが、さまざまなバリエーションの事例を紹介することで、それぞれの町内会の事情に合ったやり方を見つけてもらえればと思っています。

○大井副会長

今日はグループワークシートの④ぐらいまで進めて、できれば⑤の施策案のアイデアまで出てくるといいのかなと思っています。

最初に、皆さんで仙台市の追加資料を見て考えたことや、今日に向けての宿題としてお願いしていた、町内会の情報や、自分の地域の町内会がどんな活動をしているのかについて、それぞれ調べていただいたことを共有したいと思います。その後に、テーマについて考えることを共有できればと思いますのでよろしくお願いします。

○加賀委員

先ほどご説明いただいた、ゴミ集積所の清掃や街灯の設置、避難所のまとめ役などとしても町内会が機能してるのを知らず盲点だったなと思っています。学校の授業で、ある町内会の調査のようなことを行う機会もあるんですが、そうした調査の中で町内会の良い点について質問をしても、さまざまな方との交流のような回答が多かったのですが、今の説明で、さまざまな機能があったことを知ることができました。

仙台弁こけしのチラシを不動産会社に設置しているという話があったと思うのですが、新しく転居する人ではなく、現在町内会に入っていない人も含めて広げられたら大きな効果になるのではないかなと考えました。

私は今町内会に入っておらず、また、住んでいるところがちょうど地区の境目のエリアで、どこの町内会が管轄なのかも分かりませんでした。

○清野委員

仙台市の資料で、加入促進のために講座やワークショップを実施されていることも知らなかったですし、そうした取組の成果報告書なども調べると出てきて、そうしたものをしっかり届けられたら加入のハードルが下がる方もいるのではないかなと思いました。興味ある方はきっとこうしたものを調べてると思うのですが、関心がない層にもしっかり届けてあげることが大事だと思います。また、講座を行っている区ごとの数値を見ますと、泉区が一番少ないのは、元々加入している人が多いから講座の回数が少ないのか、疑問が残りました。

自分の町内会については、単位町内会の上に、連合町内会がある構造になっています。単位町内会の活動としては、夏祭りやスポーツフェスタという 800 人ぐらいが毎年参加する運動行事であったり、周辺の高校も交えた防災訓練、敬老会、芋煮会など行事を中心に行っていることを地域のサイトを見て知りました。私も参加しているのですが、町内会が運営していることを初めて知りました。

それから、連合町内会長さんが近所に住んでいて、お話をお伺いしたところ、高齢者が多い地域ということで意見が集まって道路の補修を要望して実施していただいていたなど、町内会として機能していることを知ることができました。

○河村委員

今回自分が入るべき町内会がどこかというところを調べたんですが、自分だけではやはりわからず、仙台市側で問合せ先として案内している区役所に電話をして、知ることができました。その際に、別の方法で探せる方法があるんですかと尋ねたら、町内会のエリアの区分け自体がかなり入り組んでいるため、自分で特定するのは難しいと思います、電話いただいた方が早いですよ、という回答をいただいた状況でした。

このチラシで、フォームに自分の名前なども入れると、どこに入るべきかということを教えてもらった上で加入の取り次ぎをしてくださると案内がありますが、やはり加入を迷ってる段階の人にはハードルが高いように思うので、間にもう一段階あればいいなと思います。例えば、どの程度の頻度で会合などがあるのか、どの程度の貢献度を求められるのか、どの程度の会費なのかといったことが、事前にわかっていたら安心して加入できるのではないかと思います。事前にそうした一覧のようなものを自分でアクセスできるようになっているのか伺いたかったです。

○地域政策課

まず、ご自分の町内会の調べ方という点では、区をまたいだ町内会もありますので、区役所の職員が対応した通り、聞いていただくのが一番早い方法です。

また町内会の一覧については、今ありませんので、たしかに町内会の情報へアクセスがしばらく状況ではあると思います。

○佐藤委員

僕もまず所属している町内会を調べたところ、インターネット上の検索だけじゃわからなくて、実際に区役所の窓口に聞きに行きました。そこでエリアの区分けが記載された地図を見せていただいて、自分のマンションが入ってなかったんですが、窓口として案内できる町内会が記載されたチラシのようなものをいただきました。初めてこういったものがあることを知ったんですが、本当は転居したときに一緒にこうしたチラシのようなものがあればと思いました。窓口か、もしくは電話で問い合わせないと分からないものなんだなというのが初めて知ったことでした。また、仙台市のホームページを見て、町内会のデジタル化の事例や、

さまざまな活動報告をされてることを知ったのですが、実際自分の入ってる町内会の活動を調べても出てこないため、見えにくい部分があることを感じました。

一方で、社会福祉協議会と町内会が連携している取組は、社会福祉協議会のウェブサイトに出てきたので、一つの町内会で何かを行っているというよりは、他の町内会や他の団体と組んで活動していることは多いのかなと感じました。

今回色々調べていく中で思ったのは、よく分からない活動にお金払うのは嫌だなと思うように、町内会費をデメリットに感じるのが、入りたくない人の心理かなと思ったので、町内会費1年目無料とか、そうした取組もあるのではないかと感じました。

それから、今回の施策を考える上で、狙うターゲットをこれから議論していくと思うんですが、引っ越してきた人をターゲットとするか、もう既に住んでいて加入していない人をターゲットにするかによって、アプローチが違ふと考えた上で、これから引っ越してくる人をターゲットにするというのはかないハードルが高い気がしていて、地域に住んでるけど加入していない人だと、加入している知り合いなどからの紹介などでハードルは低いのかなとは感じました。

○及川委員

私個人としては、むしろインターネットにさまざまな情報が載っているのを見てしまうと、逆に大変そうだなと感じそうです。例えば、掲載する情報をまとめるのが町内会の年配の方だとすると、年配の方々が楽しいイベントのことを掲載すると思うので、若者から見ると逆に抵抗感が出てくるかもしれないと思います。受け取る側の視点を考えた発信の仕方が難しいなと感じています。私は自分の町内会の発足時から加入しているのですが、過去を振り返ると、引っ越しなどで隣近所にご挨拶に行った際、町内会も含めてさまざまな情報を聞いたので、インターネット上の情報だけに頼らず、ご挨拶のタイミングで隣近所に聞ける気軽さがあるとリアルな温度感が伝わっていいのかなと思いました。同年代の友達や知り合いの口コミや直接話を聞くことで、肌感として伝わりやすくなると感じました。

それから世代間ギャップみたいなものも町内会に対する抵抗感を生む要因の一つなのかなというのも加入している側として感じています。

ですので、世代間交流の施策があると、解決に向かう気がしています。

○浅野委員

僕の町内会では、集会所の隣にある公園の雑草抜きであつたり、学区民運動会、秋祭り、あとは赤い羽根の募金や町内会費を一軒一軒回って集金しているといった活動をしていると聞いてきました。

若い世代にどうやったら参加してもらえるかというところでは、僕たちの地域では、例えば卓球大会をするときは学区内の中学校の卓球部に声かけたり、バドミントン大会をするときはバドミントン部に声かけたりと、極力若い世代、中学生や大学生にも参加してもらうようにしています。あと、お祭りの際にも、若者や子育て世代のために、新たな試みとしてキッ

チンカーを呼んで好評をいただきました。

次に、活動内容を知ってもらうという点では、僕は情報学部にて、今、五つの区で、町内会独自のホームページやグループ LINE を作る支援を1年間の伴走型のボランティアとして行っています。町内会のホームページは、広報の一環として作成しているのだと思うのですが、グループ LINE の二次元コードが掲載されているケースもあって、実は試しに入ってみたことがあるのですが、そのまま役員会のグループ LINE に入れてしまったという経験があり、情報発信のデジタル化はしていかなければいけない一方で、そうしたセキュリティや個人情報への配慮も整備しないと危ないんじゃないかなと思うことがありました。

○大井副会長

私もホームページを拝見して、仙台市がさまざまな取組をされていることを知りました。町内会運営の事例もたくさん紹介されてるし、町内会長さんへの研修、運営を軽くするための支援など、工夫をされて取り組んでいることを知る機会になりました。

ただ、やはりそれを普段見る機会がないという部分と、加入したいと思う方への情報発信となるとなかなか難しい部分があるのだと思いました。加入するかどうかわ迷ってるタイミングに欲しい情報が届けられていない印象を受けました。

私は転居してきたときに、自動的に町内会に入会してもらいますと案内されて入会した形です。町内会費も家賃とセットで引き落とされているので、負担感が軽くなっている部分もあると思いますし、町内会との接点はほとんどなくて、あまり意識してこなかったというのがあります。活動内容については、市政だよりの配布やゴミ集積所の管理、資源回収とか地域を良くするベースの部分を担当していただいているんだなとは思っていました。ただ、それ以外の活動内容を自分で調べようと思っても、以前配られた町内会の総会資料は処分してしまっていて、今は確認できる資料が手元になく、やはり自分たちの世代ではいつでも見られる発信媒体に載っているといいだろうなと思ったところでした。

また、町内会の方と話したことがないので、どんな方が運営していただいているのか知りたいなと思いました。

(休憩)

○大井副会長

宿題としていたテーマに対して考えてきたことを共有して、それから皆さんで話し合いできたらと思います。

テーマは、「さまざまな世代の住民や転居した方々に地域の活動してもらうためにどうしたらいいか」ということと、「若い世代に地域活動に参加してもらうにはどうしたらいいか」ということです。

○加賀委員

1つ目の、地域の活動を知ってもらうにはというテーマについては、授業の一環で調査する中でも、町内会が何をやってるかわからなくて困ってる人が多くいて、町内会の活動内容をリーフレットなどにまとめてさまざまな人に渡せばいいのかなとも考えましたが、それもまた負担になると思うので、例えば、行政の取組として、AI を使って作成するなどのサポートがあってもいいのかなと思いました。

2つ目の、地域活動に参加してもらうにはというテーマについては、小学生から中学生までは、子ども会などを通じて町内会にコミットしてるのに、高校生になるとだんだん町内会と関係が薄くなっていき、転居した先でもそのまま加入しないということが起こると思うので、高校生や大学生をターゲットにして、気づいたら町内会から離れてるという現象をなくせるような状況が作れたらいいんじゃないかなと思います。それから、仕事が大変そうという理由で町内会に加入することを躊躇する人もいると思うので、負担を軽減することを考えていく必要があると思います。例えば、市政だよりは市の公式 LINE でも発信されてますし、デジタルで見てる人も多いと思うので、紙での市政だよりを全員に配る必要あるのかとか、引き継ぎはちゃんとなされてるのかということまで考えられると良いと思いました。

○清野委員

活動を知ってもらうというテーマについては、今実施されてる活動報告や情報発信は、事後的なものが多く、次の予定は未定だったりすると、活動に興味をもってもらったとしても、行動に繋がりにくい部分があって、そうしたことが、加入につながるようなイベントに参加しにくいということにつながるのではないかなと思いました。町内会に加入しないことで回覧板が回らないという状況から、多くの人に予定する行事やイベントの情報などをしっかり届けられるようになれば、町内会加入にもつながると思います。

また、若い世代に地域活動に参加してもらうというテーマについては、参加するデメリットから考えると、拘束時間が長そう、お金がかかりそう、高齢者や大人の方との関わりが難しそうというところがあると思います。例えば、ボランティアのような形で外部からでも関わってもらったり、単発で拘束時間を短くして関わってもらうことも考えてみてもいいのではないかと思います。こうした活動を行った「活動証明書」を最近の入試で利用できる学校も増えてるので、中高生にも需要が高いものなのかなと思います。Zoom や LINE など、そういったツールを活用して、まずは気軽に始めていけるような、風通しのいい仕組みを作れたらよさそうですね。

○河村委員

若い世代の人たちに加入してもらいたいと考えたときに、加入したくないという否定的な意見をいろいろ聞いていると、理由として1つは金銭的な問題で、年会費を取られること、もう1つはやはり時間的な拘束などの負担感ということが大きいのだろーと思います。

そうした金銭的あるいは時間的な負担がある中で、それを上回るメリットがある、あるいは

入らなかったときのデメリットが大きいとなると、加入しなければという考えに至ると思うんですね。今はコストを上回る利益が見えない。そもそも内容が分からないものに対して、不安とか加入するとどれぐらい仕事を任されるのかとか、そういったコストが見えないし、利益も見えない。そうした何も分からない状態だと、やはり若い人たちの加入しにくさはあるのだろうと思います。先ほどお話でも出ましたが、情報を出しすぎることによる弊害もあるので難しいところではありますが、どれぐらいの負担感なのかという具体的なメリットがあるのかという部分の発信は必要なのかなと思いました。

また、ターゲットの話の中で、先ほど既に居住している人に加入してもらう方が、実効性がありそうという話があって、それももちろんそうだと思うのですが、転入する人に対してアプローチしていく方がよりやりやすい側面もあるように思います。例えば、町内会は基本的には入るものという設定にして、さまざまな事情で辞めたい場合には自由に辞められる仕組みや、加入を希望しない場合にその旨を申請するという仕組みにするとか。確固たる意志をもって加入しないという人はそこまで多くないと思っていて、基本的には加入するものというふうになってるとしたらそこまで抵抗はないのかなと思いました。もちろん任意の団体なので、退会したい人の意思が妨げられないようにするなど、慎重に行う必要はありますが、そうしたやり方もあるかもしれません。

○佐藤委員

活動を知ってもらうことについてですが、まずは地域のスーパーや商店街で町内会の具体的な活動内容がわかるものを掲示してもらうといいのかなと思いました。よくスポーツ少年団の団員募集とか掲示されてますよね。

先ほどの話で、ネットでこどもがどこの地域に住んでいるといった個人情報が出て特定されてしまうのは怖いと思ったので、基本的にはその地域に住んでる人が見られる場所であれば、地域の町内会に加入してる人を特定したところであまり悪用される心配は少ないかなと思いました。

あとは町内会に加入するメリットとして金銭的な享受を受けられたらいいのかなとも思います。例えばチェーンのスーパーと提携して、加入している人には特定の日だけ利用できるクーポンをプレゼントするですとか、シークレットセールに招待してくれるようなものがあると、加入しようと思う方もいるのかなと思います。

先ほどお話いただいたスポット参加のところはすごくいいなと思って聞いてました。イベントなどではなく町内会の業務、例えば広報などをスポットワークのようにまず1時間単位でお手伝いいただけるような仕組みにするといいと思います。企業で向上心高く働いている20代後半くらいのサラリーマンの中には、地域を自分の力で改善しましたといった実績を作ろうとしてる人もいるので、若い世代のスキルのある人がちょっとだけやってみようかな、手伝ってみようかな、というふうになればいいなと思いました。

○及川委員

商工会の青年部のようなものを作って、町内会に参加するときは青年部から誰か参加することにすれば拘束時間も短くなるなと思いました。

世代間での交流は大事ですが、敢えて分けてしまって、お互いメリットがある部分で交流する形にするといいのではないのでしょうか。青年部があればいろんな情報交換もできるし意見も言いやすいし、青年部の意見として町内会に話ができるのかな、と考えていたところです。参加もしやすくなると思います。

○浅野委員

活動内容を知ってもらうために、僕の町内会では町内会だよりを毎月発行してるんですが、今まで町内会に加入している世帯だけに配っていたものを、今年から加入していない世帯にも配って、町内会の取組を知ってもらう活動に取り組んでいるので、そういった工夫もできるのかなと思います。

また、若い世代に参加してもらうためには、仙台市にはボランティア団体や学生団体がたくさんあると思うので、僕の町内会でも呼ぶことがあったり、僕自身もボランティア団体として他の町内会に出向いたりしていて、こうした積極的に動いてる大学生を有効活用していけば、見た目的にも華やかになると思いますし、若者が参加している活動報告にもなり、加入にも繋がるのかなと思いました。

○大井副会長

活動内容を知ってもらうというところで、先ほどウェブの発信も欲しいなと言いつつも、私もスーパーやコンビニとかに掲示されてる情報を見ていますし、街を歩いてると掲示板のようなものを目にするので、「この場所に情報がある」というのが地域の人に認知されていて、それが日常生活によく使う場所だと、定期的に見るのではないかと思います。ウェブが苦手な方や町内会でもできそうだなと思います。

若い方に参加してもらうというところでは、プロジェクトのように、お祭りを運営したい人が集まって運営をして、終わったら解散といった、スポット的なプロジェクトにできると、気が楽ですし、そこから積み重ねていくと、継続した役員就任の話のような、そうした自信にもつながるのかなと思っています。

何事も段階が大事だと思うので、加入していきなり役員依頼があると、自信もなく負担感も大きいと思うので、成功体験を1回踏めるといいなというところはすごく思ったところです。

○大井副会長

皆さんに発表いただいたものをポストイットに書きだしてるので、課題と解決策として整理できたらなと思います。

(整理)

整理してみると若い世代に参加してもらう方の課題や解決策が出た感じですね。

ターゲットの話も出ましたよね。学生やもう少し絞った高校生や大学生などの途中で抜けちゃう世代、あとは社会人なのか、というところですかね。

○及川委員

一般の社会人で土日休みの人を探すのも最近大変になってきました。

○大井副会長

大学生も土日じゃないと難しそうですね。

○佐藤委員

大学生は土日はアルバイトも多いですね。アルバイトでお金を稼ぐことを差し置いて、ボランティアや町内会の活動に参加するのはハードル高そうですね。

○浅野委員

でも、学生も就活や入試などでアピールする「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」という観点で参加したい人もいるかもしれません。

○大井副会長

確かに学生はガクチカ、社会人は地域貢献を目的に参加してもらおうという考えはありそうですね。

○清野委員

平日は地域の方、土日は若い世代、というように分担しながらできたらいいですね。

○大井副会長

他に深掘りしたいことがありますか。

○佐藤委員

情報発信の話で、個人情報やネットに掲載される不安について、委員の皆さんのお考えを聞きたいと思いました。写真、情報、自分のことなのか家族のことなのか、個人によっての許容範囲が違うと思うので。その結果によっては、発信の方法もオフラインに注力していくかウェブも行うべきなのか、変わってくるかなと思います。例えば子育て世帯の方はいかがでしょう。

○及川委員

特殊事情で居場所を知られたくない人もいますよね。今のご時世、何するにしても写真の掲載については同意書を取るじゃないですか。町内会だと今そういった制度が確立されていない

と思うので、そういった制度があれば出していいと思います。出し方として、名前をイニシャルにする、苗字だけなど工夫はできそうです。

○青葉区まちづくり推進課

（活動の様子を写真で投稿する町内会の事例を提示）

○佐藤委員

モザイクで個人が分からないよう配慮されてますが、やはりこうやって写真で投稿されると活動の内容がすごくイメージできますし、参加する気にもなりますね。未知の団体ですと参加しづらいところがありますからね。モザイクや限定した掲載というのも効果的です。

○及川委員

そういった講習をやって町内会向けに行ってほしいですね。町内会名簿などへの電話番号の掲載なども気を遣う必要があると思います。

○大井副会長

そういったところにも配慮していただく安心感があるといいですね。

○佐藤委員

転居してきた若い世代の人にとっては不安を感じ部分かと思いますし、町内会に加入してもプライバシーはしっかり守られるということをセットで発信してほしいです。

○及川委員

情報リテラシー教育は、大人の方にとっても大事ですね。

○佐藤委員

情報発信するとしてプライバシーの部分と、高齢の役員の方々の SNS の活用という部分の課題は大きいかもしれませんね。

○地域政策課

町内会にこう変わってほしいという視点で、さまざまな課題の洗い出しを行っていただけてますが、そのために仙台市側で町内会へどういった支援ができるのかといった視点でもご議論いただければと思います。

○大井副会長

解決策もその視点で見るとどうですかね。

○加賀委員

スポット参加するに当たってのハブとして仙台市が担える気がします。プラットフォームの作成や運用部分ですかね。

○及川委員

このイベントのボランティア募集とかですよ。

○佐藤委員

その地域や町内会の人じゃなくても参加できるような。たしかにその部分での行政が運営してる安心感は大きいですよ。行政側が募集しているなら信頼感ありますね。

○大井副会長

マッチングの部分を市側が担うというのはいいですね。

○及川委員

マッチングでいうと、イベントなどのボランティアだけではなく、情報教育も含めお困りごとなどと教えてくれる人のマッチングというのもいいかもしれませんね。

○浅野委員

他で言うと、町内会への加入が当たり前の制度を作ってもらえた方がいいのかなと思いました。会費自体もそこまで高くもないし、加入してみればやめたいという人も少ないのかなと思ひまして。そこを行政の力で行っていただくことはできるのでしょうか。

○及川委員

町内会は任意団体なので、それは行政だからこそ難しいと思います。任意団体でしょという指摘はどうしても入りそうですよね。

○佐藤委員

そうした問い合わせはありますか。強制加入のようなトラブルに発展しそうな案件とか。

○地域政策課

実際にはあります。ご説明した通りニーズの変化や多様化があり、加入の無理強いはできないというのが行政側のスタンスではあります。

○浅野委員

やはり自分の町内会がどこなのか、教えてくれるシステムは欲しいですよ。情報が何もないと加入するにもできないです。

○及川委員

この地域の避難所はここですという掲示板のようなものがありますよね、そうした形でこの地域の町内会はここです、のような一言も記載されてるといいかもしれないです。防災情報の発信に町内会名が書かれているのを見ない気がしますね。

○大井副会長

私も防災のような地域の方に絶対に必要な要素を絡めるのはいいんじゃないかなと思います。今日出た施策案がどの課題の解決策として機能するか、次回にも議論出来たらいいと思います。また、河村委員や浅野委員から意見のあった、加入前提のお話ですが、強制は絶対にできないけど、もう少し強制感のない形でのやり方はあるかもしれないので次回も話したいですね。

○河村委員

転入届の手続きの際に、あなたの地域はこの町内会なのでここにアクセスしてください。という情報があるといいですよ。

○大井副会長

そのくらい具体的な情報を教えてもらえるといいですよ。

○佐藤委員

おそらく既に実施してる部分もあると思うのですが、転入の時にさまざまな書類に埋もれてしまいますよね。必要な情報ではあるのに。

○及川委員

転入して少し落ち着いた時期に届けられるいいですよ。

○大井副会長

子育て世帯は、幼稚園入園や小学校入学といった節目のときにももらえるといいのかなと思ったんですがいかがですか。

○及川委員

小学校入学の際、子ども会に加入したいからどこの町内会ですかと聞いてくる方はいますよ。

○大井副会長

今日出た話を整理しましょう。活動内容を知ってもらうというテーマについて、情報を知る機会の話や、情報発信の仕方についても事後報告が多く、これからの活動の話が見えないというところが課題感として出てきましたね。あとは、見えすぎと逆効果になるといったこと

や、プライバシーへの配慮なども気づきを得られました。この辺りは、次回も深掘りしたいですね。

若い世代に参加してもらうにはというテーマについては、コストと得られる利益やメリットの見えづらさがハードルを高くしているという議論がありました。メリットは学生であればガクチカ、社会人であれば地域貢献という観点でも訴求しつつ、プラットフォームというマッチングの仕組みがあると参加もしやすいという議論になりました。

2つのテーマの課題や解決策は、リンクしてくる印象ですね。

○佐藤委員

一点質問ですが、加入する町内会が居住する町内会である必要性はあるのでしょうか。

例えば社会福祉協議会のようなさまざまな団体とのコラボとか、浅野委員が仰ってくださった学生団体との協業といった話もある中で、加入するのがその地域の若者である必要性がどのくらいあるんだろうなということや、将来的にどうしても若い世代が少なくなっていく中で、その地域を担う人がその地域に住んでなくてもいいのかなと思いました。

○地域政策課

地域の運営で考えると、その町内会を維持するためには、その地域での次世代の存在は必要だと思います。ただ、今、本当に担い手がない状況で、その対処療法として、地域外の若い人の力借りるということは効果的だとは思いますが。

○及川委員

町内会の規約次第の部分もありますよね。

(B グループのグループワーク終了)

●A グループ発表

○前田委員

A グループは、まず課題・現状を整理しまして、課題に対してのアプローチ方法を考えました。テーマである関係人口を増やす目的で考えると、今市外に住んでいる社会人への施策が、即効性がありそうなことと、中期的な目線として、今、市内に住んでいる学生に対して仙台市への愛着を育てる、というアプローチで意見がまとまりました。

今後それぞれの具体的な施策を練っていく予定です。以上です。

●B グループ発表

○佐藤委員

B グループでは、まず町内会の活動を知ってもらうことについて、情報発信がどのような形態で行われるべきか議論がありまして、町内会が取り扱う情報には、こどもの顔写真や電話

番号なども含めてプライバシーに関わる情報が多いということが分かりました。そうしたことが加入前の不安要素になっているのではないかという話になりました。僕たちも今回自分の居住エリアの町内会の活動などを調べてきたのですが、半分くらいの委員が自分の町内会を見つけられなかったんですね。区役所の窓口にお問い合わせしなければいけなかったり、苦労があったので、自分の町内会そのものを知ってもらうハードルが高いということを共通認識としてもちました。

オフラインや SNS 発信について行政側の施策について、深掘りできればと思っています。

また、若い世代に町内会に入ってもらうことについて、拘束時間や金銭面での実際のメリット・デメリットが見えないのがハードルになっていると考えました。こちらも今後解決策についての議論を進められればと思っています。以上です。

○齊藤会長

皆様、大変お疲れ様でした。

参画の梯子、という言葉 皆さんは聞いたことがありますか。市民が社会に参画をするにあたって、どのように参画しているかということが梯子で表現されているものです。言われたから参加するなどのお飾り参画や敷かれているルールにそのまま乗っかるだけのものから、市民が主体となって活動する、こどもだったら大人も巻き込んで活動する、という梯子を上っていく考えがあります。今回、私たち自身が、このスキームで梯子を登らせていただいていると思うとともに、各グループのテーマにおいて、どのようにさまざまな人に梯子を登ってもらうのか、そうした視点をもってこの時間を過ごせたなと私自身は感じています。

第3回目以降も皆さんと和気あいあい、喧喧諤諤と議論させていただければ嬉しいなというふうに思っていますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

5 閉 会

○村上事業推進担当係長

皆様、長時間にわたりご議論をいただきましてありがとうございました。次回の第3回会議は、8月6日（木）16:00より、場所は日立システムズホールの研修室で開催いたしますのでよろしくお願いいたします。以上をもちまして、第2回仙台若者会議「せんだいユースカウンシル」を閉会させていただきます。皆様、大変お疲れ様でした。

以上